

登録有形民俗文化財

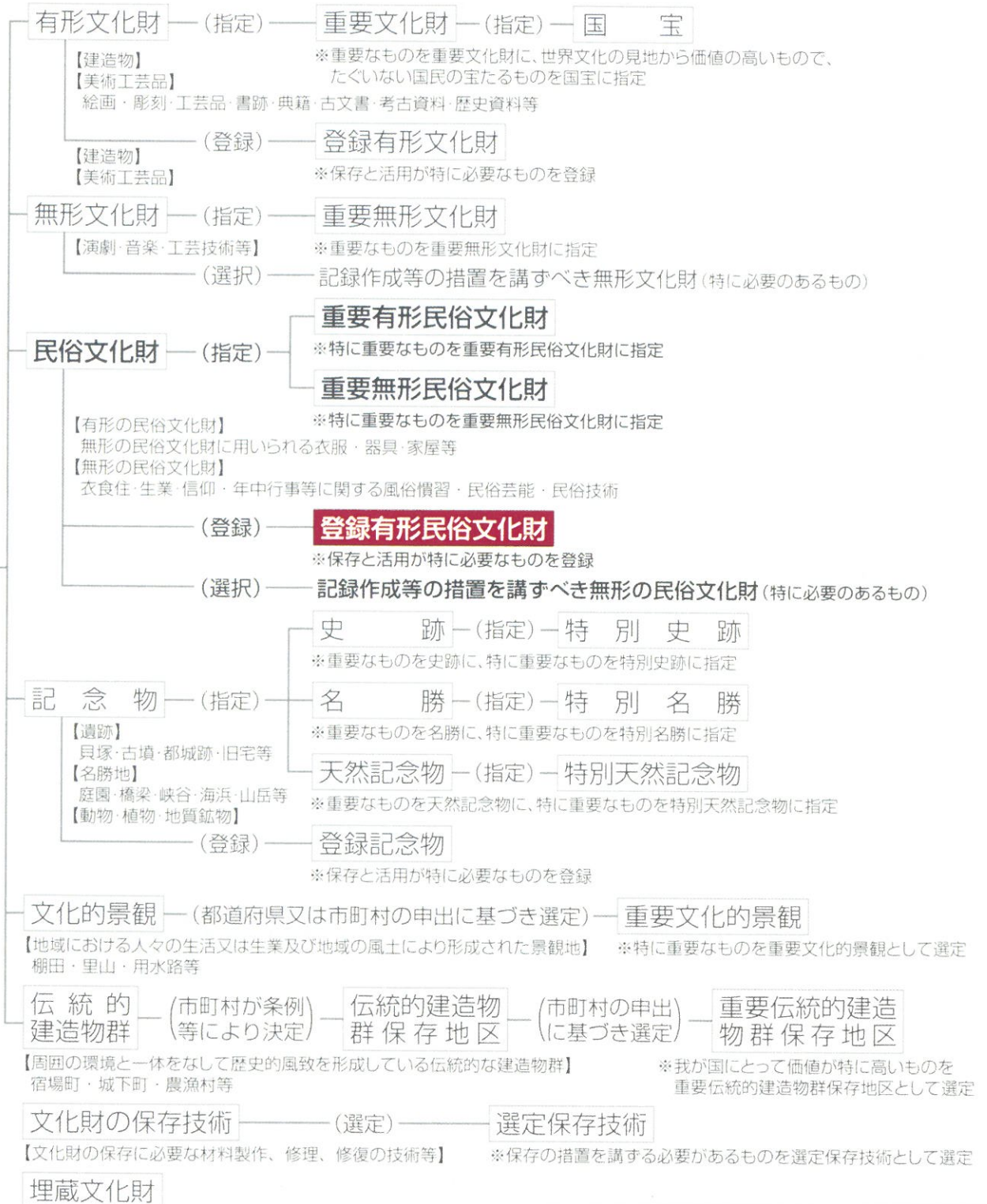
丸亀うちわの 製作用具及び製品



国の文化審議会が平成23年1月21日、登録有形民俗文化財として、本市所有の「丸亀うちわの製作用具及び製品」を文部科学大臣に答申し、その答申に基づき、平成23年3月9日、国の登録有形民俗文化財に登録されました。総点数487点で、内訳としては製作用具が302点、製品が185点で、丸亀市立資料館と香川県うちわ協同組合連合会が長期にわたり収集してきたものです。うちわを製作するための用具と製品を工程ごとにまとめて登録しています。

文化財の種別

文化財





丸亀うちわの製作用具及び製品分類

竹骨製作用具

竹挽き用具
 ↓
 木取り用具
 ↓
 ふしはだけ用具
 ↓
 わき割用具
 ↓
 穴あけ用具
 ↓
 鎌削り用具
 ↓
 柄削り用具
 ↓
 編み用具・つけ用具
 ↓
 出荷用具

貼用具

耳つみ用具・紙断用具^{かみたち}
 ↓
 貼立用具
 ↓
 あご切り用具
 ↓
 縁切り用具
 ↓
 へり取り用具・元貼り用具
 ↓
 筋いれ用具・渋引き用具
 ↓
 出荷用具

その他用具及び関係資料

版木類
 その他用具及び関係資料

製品

半製品
 製品

うちわの歴史



丸亀うちわは、寛永10年(1633)頃、金毘羅大権現の別当、金光院の住職宥峴が金毘羅参詣の土産物に金入りの渋うちわ(男竹丸柄うちわ)を作ったのが始まりといわれています。そしてその頃、讃岐国を治めていた生駒氏が大和国より2名の職人を招いて製作を指導させたとされています。さらに天明年間(1781~1789)には、丸亀藩江戸屋敷の下級武士が豊前国中津藩士からうちわ作りを習得し、その後、丸亀藩(京極氏)家臣の瀬山登が国元で武士の内職としてうちわの製作を奨励したとされています。

この間、江戸時代を通じて丸亀が金毘羅参りの瀬戸内側の玄関口(南方約12kmに金刀比羅宮が鎮座)として栄えたことから、丸亀うちわは金毘羅参りの土産物として重宝されました。



瀬山 登

なお、「伊予竹に土佐紙貼りて阿波ぐれば、讃岐うちわで至極(四国)涼しい」といわれたように、竹は愛媛県、紙は高知県、糊は徳島県からと、原材料のすべてを近隣県から入手できたことも丸亀うちわの製作を支えていました。当時の丸亀うちわは、女竹を利用した柄の丸いうちわです。



脇 竹次郎

明治時代になると、旧士族の窮乏を救うための授産事業として奨励され、海外輸出も行われました。塩屋町で、男竹で柄の平らなうちわが量産されるようになり、問屋制家内工業として地場産業化していきました。やがて各種組合や合資会社も組織されて男竹平柄のうちわの製作量は急増し、女竹丸柄のうちわを駆逐して、最盛期ともいえる大正時代から昭和30年ごろまでは毎年、年産6000万本前後を製作し、特に昭和28年には年産1億本を記録しています。この間、大正年間には脇竹次郎が切込機と穴あけ機を発明して骨の大量製作への道を開き、昭和初期には田中式名入れ印刷機や山県式名入れ印刷機が登場し、広告用うちわの大量注文に応じました。このように丸亀うちわは、早くから日本のうちわの大半を製作してきており、その技術は、例えば熊本の来民うちわにも伝えられたといわれています。

うちわの製作用具

製作用具は、竹の骨組みを作る竹骨製作用具と骨組みに紙を貼る貼用具に大きく分けられます。竹骨製作用具は、竹挽き用具、木取り用具、ふしはだけ用具、割用具、穴あけ用具、鎌削り用具、柄削り用具、編み用具・付用具、出荷用具からなり、貼用具は、耳つみ用具・紙断用具、貼立用具、あご切り用具、縁切り用具、へり取り用具・元貼り用具、筋入れ用具・渋引き用具、出荷用具からなります。この中には大正時代以降の製作量の急増、製作の効率化に大きく貢献した切込機や穴あけ機も含まれています。また、その他の用具として版木や製作用具の手入れをする砥石などもあります。

竹骨製作用具

竹挽き用具

竹をうちわに適した所定の長さに切る用具。



竹挽き鋸

竹を所定の長さに切る。



竹挽き台(馬)

竹を切る時の台。



寸竹

竹を切る時の物差し。



木取り用具

竹をうちわに適した一定の幅に割る用具。



木取り用鉞(なた)

うちわに適した一定の幅に割る。



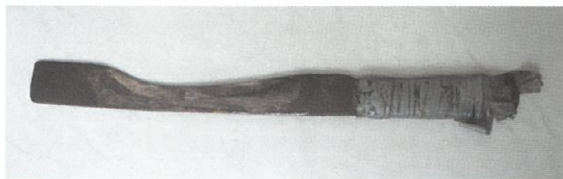
木取り台

うちわに適した一定の幅に割る時の台。作業台。



ふしはだけ用具

一定の幅に割った竹の節を落とす用具。



なた鉈 竹の節を落とす。



わき割用具

台木に竹をはさみ、穂を細かく割く用具。



切込機
竹を細く割く。



穴あけ用具

鎌竹を通す穴をあける用具。



穴あけ機
柄に鎌竹を通す穴をあける。



ロクロ

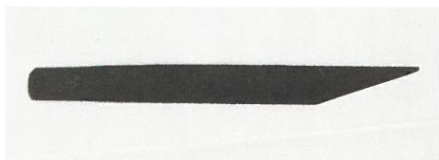


ヤスリ
ロクロのきりを
を研磨する。

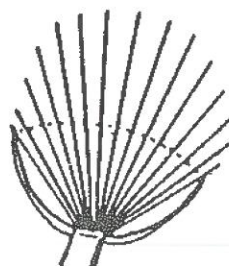


鎌削り用具

鎌竹を削る用具。



切出し小刀
鎌竹、柄を削る。



柄削り用具

柄を削ったり、種類によりいろいろな加工を施す用具。



のこ
鋸

柄を加工する。柄の角を削る。



小刀



えかんが
柄鉋

柄の裏を削る。



えかんが
柄鉋

柄の表に模様をいれる。



やきいん
焼印

薬品を使用し、柄に模様を焼き付ける。



焼きごて 柄に模様を焼き付ける。

編み用具・^{つけ}付用具

鎌竹を通し、糸で編んだ骨を整える用具。



糸車

骨を編む糸をとる。



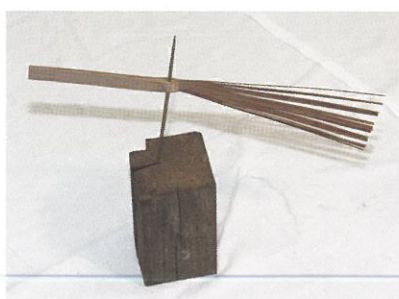
すんぼう
寸棒

糸で編んだ骨を整える。



たたき棒

鎌竹を通す時、柄の付近をたたいて左右均等にします。

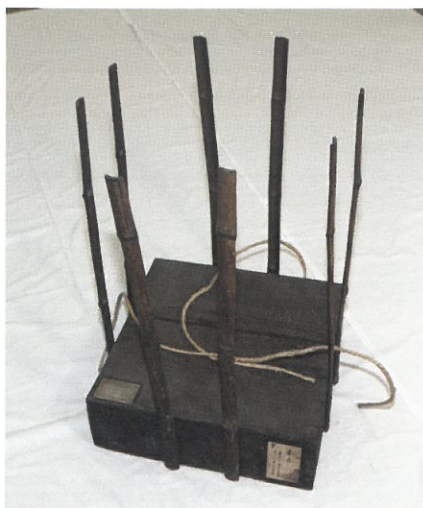


編み台

鎌竹を打ち込む時の台。糸を編む時の台。

出荷用具

仕上がったうちわ骨を束にして出荷する用具。



束台

仕上がったうちわ骨を束にする時の台。



貼 用具

耳つみ用具・紙断用具

地紙を切ったり、うちわの形を整える用具。



地紙の型

縁にそって鎌または包丁で紙を切る時の型。



台付きはさみ

うちわの形を切り、整える。



てがま
手鎌

地紙の型にそって裁断する。



裁断機

紙を型に応じて切る。



包丁

紙を切る。



型抜き

地紙のくりを抜く。



地紙に型を抜く。

貼立用具

うちわ骨に地紙を貼る用具。



のり かま
糊釜 糊を炊く釜。



刷毛

地紙をうちわ骨に貼る時に用いる。へり取りのときにも使う。



貼り台
作業台。
(貼り作業全般に用いる。)



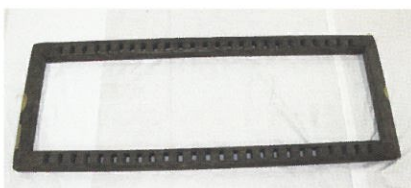
糊板
うちわ骨に糊を付ける時に使う板。



地紙
うちわ骨に貼る紙。



ささら (松葉)
貼った地紙をこする。



木枠
地紙を貼ったうちわを差し込んで乾かす。



あご切り用具

鎌竹の下部の不要な部分を取り除く用具。



ヤスリ



三角ヤスリ



鎌竹の下部の不要な部分を取り除く。

縁切り用具

うちわの種類に応じた形のものを当て、余分な部分を切り取る用具。

たたき鎌



しゃみ
三味形



はまくり
蛤形



てんき
天切り形



しょうわ
昭和形



まんげつ
万月形



丸形(小)



たたき台

たたき鎌を使用する時の台。



つち
たたき槌
たたき鎌を
たたく。



地紙の型

縁にそって鎌または包丁で切る時の型。



へり取り用具・元貼り用具

へりの長い紙を貼る用具。

うちわの元やみみに貼る紙を切り抜く用具。



へり板

へりの細長い紙を糊付けする時の台。





ぎぼし抜き

うちわの元に貼る紙を切り抜く。



みみ抜き

うちわのみみに貼る紙を切り抜く。



みみ貼り



たたき槌

ぎぼし抜き等をたたく。



ぎぼし抜き台

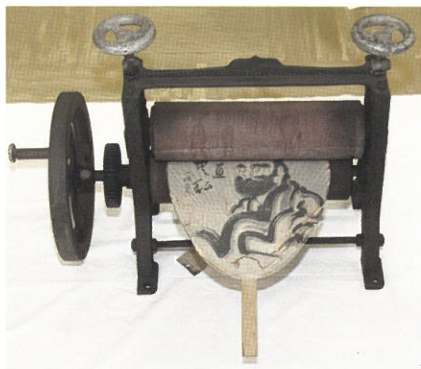
ぎぼし抜き等をたたく時の台。



元貼り(ぎぼし貼り)

筋いれ用具・渋引き用具

骨目を表すために、しごいて骨筋をたてる用具。渋をひく時の用具。



筋入機 うちわの骨筋をたてる。



かめ 瓶 渋を入れる。



刷毛 渋を塗る。



おけ 桶 渋を入れる。

出荷用具

荷造りをする用具。



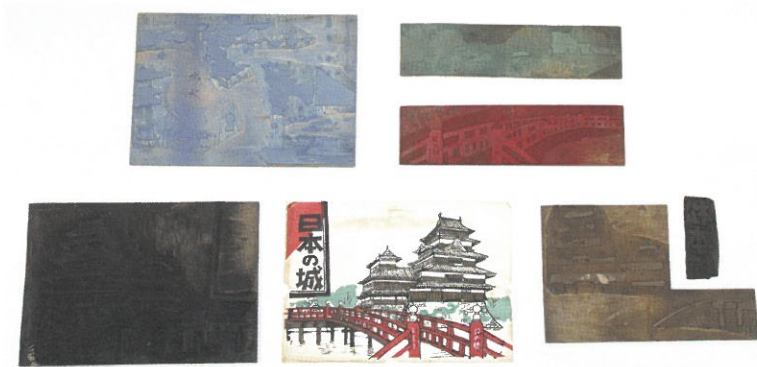
目籠 荷造り用具。



その他用具及び関係資料

版木類

地紙に色刷りの版画を施す時に使用する。



うちわ絵版木 うちわの地紙に版画を施す。

その他用具及び関係資料

団扇画帳 うちわ絵の見本帳。





砥石 刃を砥ぐ。



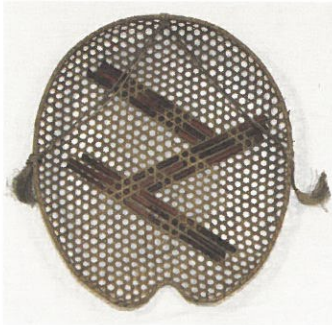
水差し
砥ぎ水を入れる。



かんざつ
鑑札
うちわ製造の許可証



看板 明治45年 名誉一等賞



団扇置き
うちわを置く。



左：団扇柄形状意匠
うちわ えけいじょう いしやう

意匠の見本

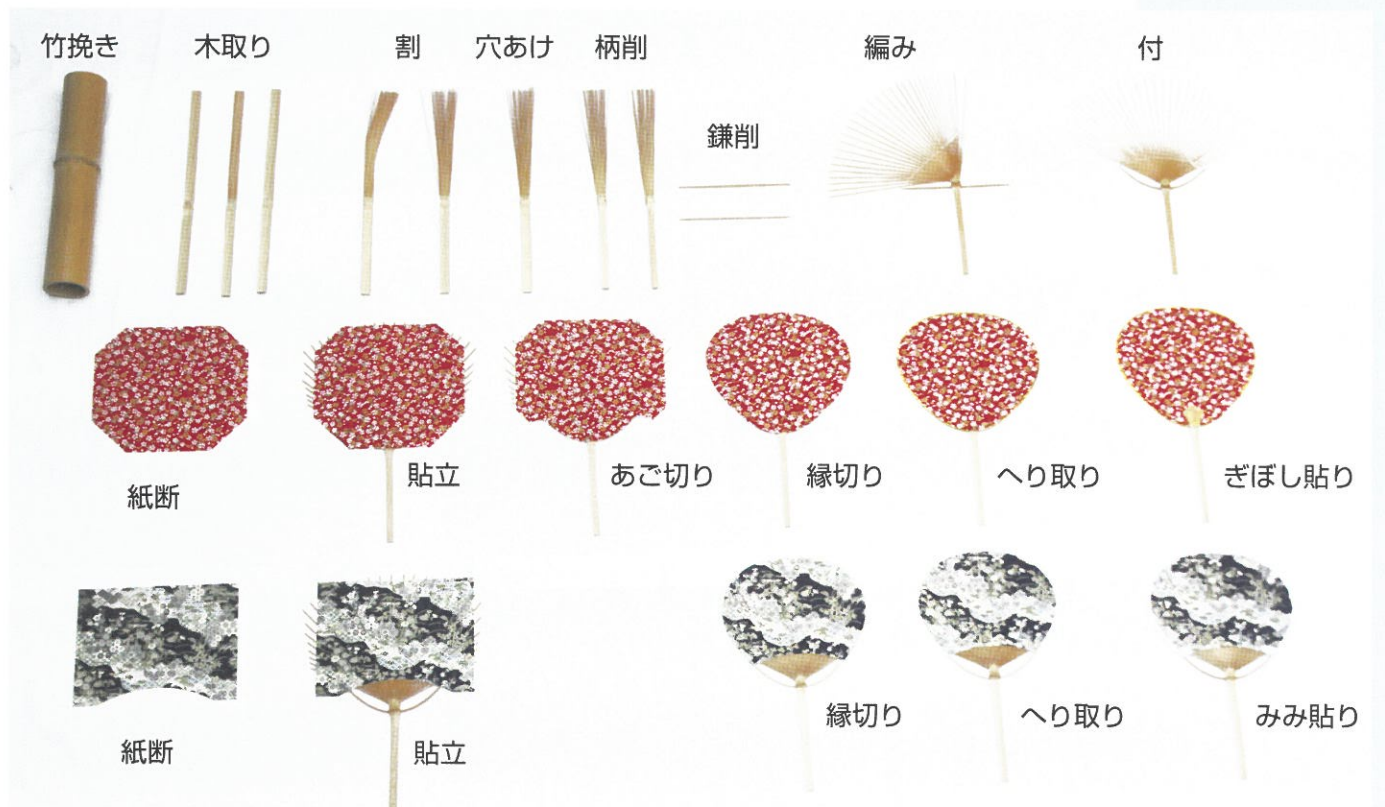
右：意匠登録証
いしやうとうろくしやう

大正2年

製品

半製品

各工程別の半製品。



製品

製品には、女竹丸柄のうちわのほか、明治時代以降主流となった男竹平柄のうちわ、昭和初期に一時期流行した経木うちわなどがある。

団扇



平柄昭和



平柄中万月



平柄亀山



平柄玉子



平柄唐月



平柄七八判渋



平柄一文字角切り



平柄一文字



平柄小割蛤



平柄京丸



平柄小割京丸



平柄小割大京



丸柄小万月



丸柄大万月



きょうぎ
経木



組団扇



丸柄金特大



さしえしやみどり
差柄三味胴



ご質問・お問い合わせは

丸亀市立資料館

TEL0877-22-5366

FAX0877-25-2439

協力 香川県うちわ協同組合連合会